令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム かつひろの家

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0371200239		
法人名	社会福祉法人江刺寿生会		
事業所名	グループホーム かつひろの家		
所在地	〒023-1101 岩手県奥州市江刺岩谷堂字反町361-1		
自己評価作成日	令和3年9月24日	評価結果市町村受理日	令和4年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①反町の郷福祉パークの中にあり、ISO9001の認証取得。2010年～品質マネジメントを導入。介護事故は、「是正処置報告書」で管理し、効果の確認も行っている。全職員が共通認識を持ち、業務が推敲できるよう業務の標準化・効率化を図るとともにリスクマネジメントにつながっている。同一敷地内に就労継続支援B型ワークセンターわかくさの作業棟リコアが7/1開設した。
②昔ながらの行事を行い、季節ごとの楽しみを感じながら、生活を送って頂けるよう支援している。（梅干しつくり・葉焼きつくり）
③ご利用者とともに地元のスーパーや産直へ買い物に出向き,地域との交流を図っている。新型コロナウィルス感染拡大防止に取り組んでいる。敬老会では、反町の郷ご利用者・スタッフと交流している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営母体の法人は、江刺市を中心に高齢者介護、障害者福祉関連施設等を運営している。当事業所は、別のエリアから、サービス付高齢者住宅、ショートステイ、デイサービス、訪問介護、訪問看護、事業所内保育所等の施設機能が棟で繋がる集合型の複合施設に移転し、2年近くが経過する。同じエリアには地域密着型特養や知的障がい者の作業所も立地しており、集合する各施設機能を活かし、利用者が繋がる高齢者の「福祉パーク」としての理想形を目指している。トイレ付きの個室、浴室は広く、車椅子の利用者も安全に過ごすことができ、快適な生活環境のもと、利用者は、介護度が高い人が多いものの、職員の細やかな援助、支援により、穏やかな日々を送っている。特養やサ高住の看護師からも協力を得られ、合同の災害訓練による防災に対する連携、協力の体制も整いつつあり、複合型の介護施設の機能を活かし、エリア全体で「介護、福祉のまち」づくりに向け、連携した取り組みが期待される。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム かつひろの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「ゆっくりと穏やかに　のんびりと楽しく　一緒に笑顔で暮らす家」朝食前に唱和し、共有することで、ご利用者の生活に寄り添ったケアにつなげている。	開設当初からの理念をもとに、5項目の目標を掲げ、利用者一人一人が尊厳ある生活を送れるよう、ニーズ、生きがい、役割等をケアプランに記載し、理念の実践に努めている。日々の唱和や職員会議等での振り返りにより理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2020年2/1～反町の郷に引っ越し。新型コロナウィルス感染予防のため、江刺甚句祭り・ヒロノ福祉パーク夏祭りは中止となった。	法人全体合同の夏祭りには100人を超える地域の皆さんが参加してくれていたが、コロナ禍のため、昨年度から中止している。同じエリア（反町の郷福祉パーク）のデイサービスやサ高住の利用者と敬老会を行ったり、特養と一緒にサンマ焼きを楽しんだり、同じ敷地内の施設のみとの交流になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2020年2/1～引っ越しに伴い、警察署・市役所・各居宅事業所・農協・郵便局などへ移転のお知らせを各部署に出向いて説明した。2021年2月思い出カフェに参加する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状態把握。入所・退所、待機者、介護事故の報告。会議にはご利用者・ご家族も参加している。写真を提示し、行事の様子がわかるよう工夫している。	地域や家族の代表等で構成され、本年度は、開催2回、書面会議2回となっている。写真等を添えて行事等の運営状況や利用者の生活の様子を報告している。新型コロナの感染状況にあわせ、家族との面会や同じ建物の事業所内保育園との交流のあり方について、協議いただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を通じて連絡・連携を図っている。奥州市の介護相談員年1回来所し、連携を図る中で、ご利用者のより安全安心な生活につなげた。（コロナウィルス感染症予防のため、介護相談員は今年度は来所なし）	市の支所を日常的に訪れ、担当者と介護認定、加算等の制度等について、直接、説明し、助言や指導を得るようにしている。新型コロナワクチンについては、市から病院に手続きを行ってもらい、迅速に利用者、職員とも接種できた。地域包括支援センターとも成年後見制度活用への助言をもらうなど、連携を密にしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム かつひろの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引きやマニュアルの他、内部研修（虐待）にて共通認識をもち、危機管理対策をしている。日中は、居室・玄関には施錠せず、センサー設置により安全確保。夜間は防犯のため、ご家族同意のもと、施錠してを開催している。毎月のカンファレンスに併せ、身体拘束防止・危機管理委員会を開催している。	毎月、ホーム職員全員による「身体拘束防止・危機管理委員会」を開催し、事故や虐待の防止にあわせ、身体拘束、特にスピーチロックについて話し合っている。指示語や無理強いが見られる場面もあり、管理者は、ミーティングで繰り返し注意を喚起している。離床センサー等の設置は行わず、職員の工夫で下履きに鈴をつけ、転倒防止や夜間の排泄介助に役立てている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々のニュースや虐待の具体例を内部研修で話し合いを持っている。身体的・心理的虐待・介護放置・怠慢など。スピーチロック＝言葉遣いにも留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2019年4/27まで成年後見人制度1名利用。随時、成年後見人と電話連絡していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご利用者及びご家族に対し、契約書・契約書別紙・重要事項説明書を説明し捺印頂いている。また、やむを得ず契約解除になる場合もご家族と話し合い、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、定期的にご利用者及びご家族にアンケート調査を実施し、意見や要望を聞く機会を設けている。面会時・行事の際、ケアプランを説明する際にも要望を聞いている。	毎年度8月に「利用者・家族アンケート」を実施している。利用者からは、食事や家族に会いたい等の要望が多い。家族からは、職員の対応等の満足度も確認している。家族との面会は、窓越しでの面会、10分間の静養室での直接面会など、コロナ禍の状況によりこまめに対策を取ってきたが、11月からは、利用者の外出制限解除、家族との外出可としている。	ホームでは、複合型の建物に移り、玄関からホームが見通すことができず、またホームの入口までの距離もあり、訪ねにくくなったという利用者の声があるとしていますが、新しい建物構造や環境の中で、家族が来訪しやすいよう、玄関からホームの入口まで、グループホームの生活の雰囲気が感じられるような工夫を職員間で検討されることを期待します。

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム かつひろの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場だけではなく、業務中を含め、意見交換している。職員補充について、管理者に相談している。職員間共通認識を持つようにしている。	主任が中心となり、日常的に運営や業務に関する意見交換を行っている。サンマ焼き等、行事のアイデアが職員からよく出される。理事長である管理者は、「人事評価制度」の個人面談等を通じて、職員の話をよく聞き、利用者の支援や運営の改善に努めており、ケガや退職で職員が欠けた状態時には、他施設からベテランの職員を廻すなど、常にホームの運営に心配りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課に取り組んでいる。理事長は「MR 経営者との懇談会」（年1回）運営推進会議(2ケ月に1回）職員会議（月1回）に参加し、状況把握と対策に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「個人教育管理簿」「法的有資格者名簿」でスタッフの力量が確認できる。改善研究は、法人内で年度末に発表会を行っている。内部研修に参加し、スタッフのスキルアップに努めている。(外部研修は、コロナウィルス感染症予防のため、参加していない）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は、新型コロナウィルス感染予防のため、定例会等の研修会はない。市内のグループホームのケアマネより加算・看取り加算などについて問い合わせあり、随時、電話対応している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	随時、電話相談対応。市役所福祉課や県立病院医療連携相談室や居宅ケアマネの勧めで申し込みに来られる。ご本人・ご家族の困っていること、不安な事に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡調整を行い、ご利用者及びご家族の不安解消と状況把握に努めている。面接後、お断りされたが、1週間後、再び電話がきて、入所希望したいという方もいた。ご家族も入所と自宅介護で迷っている感じが見受けられた。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム かつひろの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ある方は、息子さんから「グループホーム入所に対して気持ちの整理がつかない」ということで、特養のショート利用している間に入所を考えていただき、入所判定会議後、特養のショート利用してから自宅より入所した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを念頭におきながら、ともに過ごしていくことを心がけている。食事作りや季節の行事はどのようにすればよいかご利用者の意見を聞きながら行っている。（山菜の灰汁抜きなど）		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料請求書を郵送する際は、担当者がご利用者の状態報告・行事予定を手書きで送付。服薬ゼリーや下着など欲しいものは電話連絡している。今年の敬老会は、ご家族には案内状を出さず、ご利用者・スタッフのみ出席。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院の際、近所の方に話し掛けられたり、馴染の人や場所との関係を継続している。ご本人の希望があれば、自宅訪問やお墓参りに出掛けている。食材の買い出しに地元スーパーへ外出。	毎月のかかりつけ医への定期受診で知人に声を掛けられるなど、通院が馴染みの方との接点になっている。兄弟、親戚、元同僚の方が面会に来てくれていたが、現在は自粛してもらっている。ドライブで車窓から馴染みの場所巡りをしている。また、家族の協力で、お墓参りや仏壇を拝みに自宅に帰る人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士で実家の話や野菜作りの話をしたり、ご利用者が食堂の椅子を引いてあげたり、スタッフが見守りすることで「家族」という雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族の要望を聞いている。隣接の特養に入所されたご利用者やご家族と挨拶をかわし、関係の継続に努めている。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム かつひろの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の協力のもと、センター方式を活用し、馴染みの暮らしの情報を収集。夫がいないことを不安に思うご利用者に対しては「夫は入院中」とスタッフ全員で返答を統一している。猫が好きな方は、猫の写真を飾る。	利用開始時のアセスメントで、「私の暮らしノート」により、これまでの生活の様子を聴取している。普段の生活で何でも言える関係づくりを心がけ、会話を通じ一人一人の好み、やりたいこと、得意なことを確認し、やって見たい気持ちを自分で持ってもらえるよう働きかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、ご本人やご家族から生活歴や馴染みの暮らし方などセンター方式を活用し、把握。ご本人のできること・得意なことを把握し、情報を共有。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間アセスメントを用いて、生活リズムの把握。ご本人のできそうなことを見極め、潜在能力を引き出す。自宅では調理していなかったご利用者も包丁を持って食事作り・下拵え手伝っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを実施。現在の状況（医療面・生活面）や課題を把握しながら、ケアプランを作成。初回・介護保険更新時期には、ご本人・ご家族とともにサービス担当者会議実施。入院した際は、担当の看護師・主治医の意見も聞き、早期退院に向けて病院のカンファレンスにもケアマネ参加している。退院ケアプランもご本人・ご家族と作成している。	利用開始時のケアプランは、計画作成担当者（ケアマネ）が作成している。毎月のカンファレンスにおいて、居室担当者のモニタリング資料を基に、計画作成担当者を中心に職員間で現状とプランに齟齬が生じていないか話し合っている。利用開始3ヵ月毎に計画の見直しを行っており、家族の意向も確認している。病気入院した利用者については、退院後のケアが適切にできるよう、病院のカンファレンスにケアマネが参加するなど、病院との連携を密にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個別ケース記録に記載。状態に著しい変化がみられた場合は、（入院・退院）随時、サービス担当者会議を開催し、ケアプランの見直しを行っている。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム かつひろの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の重度化により、ご家族より今後が不安と訴えがあった場合は、特別養護老人ホームの申込みを勧めている。また、医療が必要な場合は病院の医療連携相談室と連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウィルス感染予防のため、地域との交流は少ない。反町の郷内の保育園の園児との交流はある。2021年7/1　反町福祉パーク内にわかくさ作業所リコアが開設。オープニングセレモニーにご利用者・スタッフともに参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は在宅より継続。ご家族やスタッフの付添いで通院。現在の状態を主治医に報告。スタッフが通院した際は、即ご家族へ電話報告。通院報告書を作成している。コロナウィルス感染症予防のため、電話診察にも対応している。	全員が利用開始前からのかかりつけ医に定期に通院している。整形外科等特定の受診は家族同伴をお願いしているが、殆ど主任が同行しており、受診結果を即家族に報告している。隣接の特養の看護師に適時に相談でき、的確な助言を受診に活かしており、コロナワクチン接種でも全面的に協力を得た。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	反町の郷の看護師に相談。コロナワクチン接種は、看護師と協力し、ご利用者・スタッフ5.6月に調節2回実施済。急変時、看護師と相談して県立病院に通院⇒入院となった経緯あり。（アナフィラキシーショックの方1名いるため、その他のご利用者全員実施・ご家族同意済）		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、「在宅生活支援シート」を医療機関に提出し、医師や看護師に情報提供している。スムーズに退院できるようカンファレンスにケアマネ参加している。県立病院の地域連携室に電話連絡し、退院調整もしている。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム かつひろの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師が確保できないため、看取りケアは困難と考えているが、看取りに至るまで、出来る限り介護している。認知症の方は、入院しても点滴抜去・興奮・不穏などで退院するケースが多い。ご家族の要望・希望を聞きながら、柔軟に対応していく。主治医より「パルスオキシメーターでSPO2を測定したほうが良い」と指示あったため、購入して、SPO2測定している。	利用開始時に、要医療以外の重度化には対応すること、看取りは医療看護の連携体制ができていないことから難しいことなど、ホームとしてやれることを説明し、同意を得ている。実際には、最後の段階まで介護に努め、看取りに近い介護支援を行ってきた。特養への申請手続きを行っている利用者もいる。	今後に向けて、特養の協力を得ながら医療と介護の連携体制を確立し、ホームでの看取りが可能になるよう、法人も含め検討を進めることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人マニュアルをもとに急変時の対応について職員会議の際、確認している。パルスオキシメーターの使い方について内部研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署立会いのもと避難訓練を実施。2020年2/1～反町の郷に引っ越し。水害訓練について、反町福祉パーク内で、計画中。（7/1リコア開所に伴い）台風の際は、人首川氾濫を想定して発電機の動作確認・非常袋の確認・人首川の水位の確認などご利用者が速やかに避難できるよう工夫している。	本年度は、10月に「反町の郷」のサ高住、ショートステイ、デイサービス、保育園と合同で火災避難訓練を実施した。2回目は2月頃を予定している。地区の防災協力員11名に対する訓練参加のお願いは、本年度については行っていない。水害等で「高齢者避難発令」を想定した「反町の郷」全体の避難訓練（避難先は市役所支所）の実施を検討中である。非常食等の備蓄は本部（特養さくらの郷）で一括準備している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の意思を尊重し、プライバシーに配慮しながら、声がけしている。制作活動に関しても本人の得意な塗り絵やちぎり絵を潜在能力を把握しながら、実施している。ジャガイモの皮むき・大根おろし・茶碗拭き・フキン縫い・洗濯物たたみなど本人の得意なことお手伝いいただいている。	本人が自分の意思で「やれること、やりたいこと」に取り組んでもらえるよう働きかけ、塗り絵、ちぎり絵等の共同制作、雑巾作り、洗濯物たたみ、食事の下準備や後片づけ等に参加してもらっている。命令口調、立ったままの食事介助等、利用者の尊厳を損なう介護が生じないよう、主任は、留意事項について、ノートの文字を大きくしたり、冷蔵庫に貼ったり、職員への注意喚起を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「箱ティッシュがほしい」「手洗い石鹸がほしい」と希望があった時は、すぐ買い物に出かけている。着るものは、なるべくご利用者に選んでいただいている。（自己決定）		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム かつひろの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	役割や生きがいを見いだせるよう支援。生活リズムを整えるため、一日の概ねのプログラムはあるが、一人ひとりのペースに合わせてゆっくり生活していただく。部屋で新聞をゆっくり読んでいるかたもいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老会などの行事の際は、お化粧をし、オシャレを楽しんでいただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材やご家族お裾分けでいただいた野菜を使用し、季節感のある献立をたてている。筍をいただいた時は、筍ごはん・筑前煮など献立を変更。「白和えが食べたい」などリクエストを聞きながら献立を立てている。下拵え・味付け・盛り付け・茶碗拭きなどは、ご利用者に手伝っていただいている。	職員が交代で利用者のリクエストを大切にしながら1週間分の献立を作成している。買い出しは職員が行い、利用者の同行は止めている。調理は、勤務割により職員が交代で行っている。家族や近隣から旬のものをいただいた時は、献立を変更するなど、柔軟に対応している。利用者はできることをそれぞれ手伝っている。職員も加わり、和気あいあいで楽しい食事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者が熱発した際は、お粥に変更。カレーライスが苦手な方には、肉じゃがを提供。焼きおにぎり：味噌が嫌いな人にはしょうゆ味に代替え。牛乳が苦手な方にはココアなど提供している。食事量が少ない方にはご飯も少なめで提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがいや食後の歯磨きを実施。本人が「歯磨きは一日1回でいい」と言う方にも時間をおいて声掛けし、歯磨きしていただくよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握。キョロキョロする際は、尿意・便意のサイン。夜間、ナースコール押さず、ベッドに端座位になっている方いる。本人に了解を得て履物に鈴をつけてトイレ誘導している。	全員が布パンツ又はリハビリパンツにパットを使用しており、排泄パターンをもとに、職員の誘導で昼夜とも居室のトイレで用を足している。着脱、始末等の介助が必要な人が多くなって来ているが、今後も現状を維持して、トイレで排泄できるよう支援して行きたいとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立には、野菜を多く取り入れ、乳製品（牛乳・ヨーグルト）も毎日提供。牛乳が苦手な方にはオリゴ糖を入れたり水分補給の工夫もしている。食事にもオリゴ糖を活用している。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム かつひろの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	菖蒲湯やゆず湯など季節感を味わって頂けるよう工夫している。バイタル測定後、二日に1回入浴。本人の気持ちを尊重し、拒否があった場合は翌日に入浴し、清潔保持につなげている。車椅子の方にも機械浴で安全に入浴。（移転前は一般浴のみ）	移転後の浴室は、脱衣所、浴室、浴槽とも広く、リフト介助もでき、車いすの人も安全に入浴できる。週2、3回の入浴を基本としている。介助の度合いが増しているが、職員が昔語りや子どもさんやお孫さんの話を聞き出したりしながら、ゆっくりと入浴してもらっている。気分の乗らない日は、翌日に回すなど、本人の気持ちを尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く眠っていただけるよう冬季は湯たんぽ提供する方もいた。眠れない時は、スタッフと話しをしながら、ココアなど温かい飲み物を飲んでいただき、安眠できる環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入院した方は、むせやすくなり、薬剤師より「服薬ゼリーを使用した方が良い」とアドバイスいただき、服薬ゼリー使用の方が2名いる。処方されている薬と作用を確認し、飲み忘れがないよう予防対策をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や得意なことが発揮できるよう役割を見つけ、感謝の気持ちを伝えている。（食事作り・茶碗拭き・テーブル拭き・ちぎり絵・フキン縫いなど）		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材・日用品の買い出しに外出。通院に合わせてご家族と自宅へ外出した方もいる。新型コロナウィルス感染予防のため、現在は外出・外泊控えているが、それまでは、自宅へ外出・外泊した方もいた。	コロナ禍の中だが、感染予防対策を講じながら、極力外の空気に触れてもらうようにしており、近くの産直やスーパーに出掛けたり、30分程度のドライブを行ったりしている。11月からは、家族との外出、日帰り帰宅を解禁している。コロナの収束状況によっては、外泊も出来るようにしたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を一時預かると興奮した方は、（盗られ妄想あり）本人の希望で財布自己管理している。入浴時に財布を確認している。その方は退所時まで、自分で財布を持っていた。現在、財布自己管理の方はいない。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム かつひろの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夫から手紙がきて、本人は手紙を楽しみにしている。娘さんと電話ができるよう支援している。娘や孫に手紙を書いてほしいと娘が便せんセット持ってきたため、スタッフ見守りしながら手紙を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはソファをおいたり、椅子を置いて、一人でも複数でも過ごせるよう工夫している。食事の席は、相性の良い方同士が隣または向かい同士になるよう工夫している。	一方に大きな窓が配置され、壁はクリーム色、床はベージュ系で落ち着いた中にも明るい感じのホールである。リビング、食堂、和室と一人一人が好きな場所で過ごせるようソファーや食卓、椅子等が用意されている。季節の行事写真や利用者の笑顔のスナップ写真等を飾り、アットホームな雰囲気の共用スペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、和室（炬燵の間）・リビング・食堂など思い思いに過ごせる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、移転前より広くなった。ベッドと洗面台、トイレ・クローゼットが備え付けられている。ベッドはセミダブルでエアコンも完備している。ご利用者の使い慣れた仏壇・椅子などを持ち込み、家族やペットの写真を飾って安心して住めるよう工夫している。	移転の際には、身の回り品はそのまま持ち込み、ベッドの位置も以前と同じ方向に配置している。家族写真や使い慣れた小物を飾り、くつろげる部屋づくりをしている。入口ドアには、大き目の名札を、車いすの人等の目線に合わせ、低めの位置に貼っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室などはわかりやすく大きく表示している。居室ごとに洗面台があり、洗顔や歯磨きがスムーズにできるよう対応している。腰が曲がっている方には、目線の高さに名前を表示している。		